

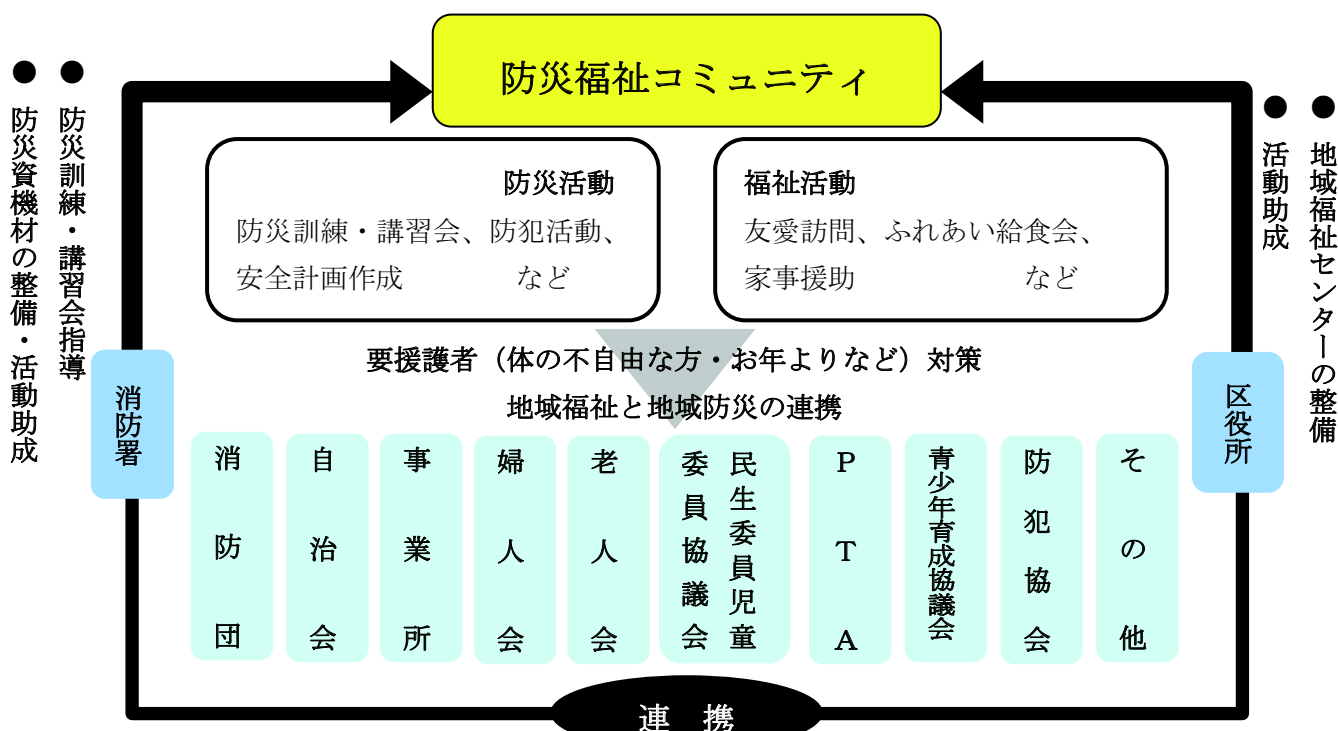
# 防災福祉コミュニティとは～自主防災組織の概要～

防災福祉コミュニティ・自主防災組織とはどのような組織なのか、他都市の自主防災組織はどのようになっているのかについて記載しています

## 1 防災福祉コミュニティとは

みなさんが活動されている「防災福祉コミュニティ」は、平成21年1月現在、市内で191地区すべての地区で結成済みとなっています。

他都市でも尼崎や洲本などで100%結成済みとなっていますが、全国平均では結成率は69.9%（平成19年4月現在）にとどまっています。



防災福祉コミュニティの概略図

## 2 自主防災組織について

自主防災組織の歴史は、古くは江戸時代の町火消しまで遡り、近代では太平洋戦争当時、空襲等に備えるため市民による消火隊が組織されました。

住民による自主防災組織の必要性についてクローズアップされた出来事といえば、阪神・淡路大震災を抜きには語れません。

当時、消防や警察といった行政の力だけでは足りないほどの大災害に対して、住民の方々が自主的に行った消火や救助活動が大きな力になりました。

最近では、東南海・南海地震などといった来るべき災害に備えようという機運から、各地で自主防災組織が結成されています。

### 3 他都市の自主防災組織

多くの場合、他都市の自主防災組織は「自治会」「町会」単位で1つの組織として活動しています。

東京都の場合も町会や自治会で、都全体では5,000近い組織があり、訓練などの活動を行っています。

神戸の場合、概ね小学校区を基本とした組織体制ですが、これは避難所として多くの場合小学校が指定されていること、ふれあいのまちづくり協議会（同じく小学校区を基本）と融合した組織体制が多いこと、などから避難所運営を視野に、ある程度まとまった人数で活動を行ってもらうことを想定しています。

それぞれメリット・デメリットがあると思いますが、自治会単位の組織では、地域でのまとまりは容易ですが、それぞれ他と連携して活動するのが困難です。

そのため、他都市では「連絡協議会」のように、それぞれ小さな自主防災組織が集まった組織づくりが行われようとしています。

### 4 ブロック訓練の推進

神戸の場合、最初から各自治会などが集まった組織として活動しているので、地域内での連携は容易ですが、逆に全体として活動するには大変な労力が必要で、また顔の見える関係を構築するにも自治会と比べて範囲が広がります。

このため神戸市では、ブロック単位（自治会単位など）での訓練を推進しており、ブロック単位での小規模な訓練を通じて、近所の方々と顔の見える関係を構築していただき、地域全体での訓練などへも参加してもらえよう取組んでいます。

